

インフルエンザニュース

東京都立衛生研究所

平成12年インフルエンザ標語

「インフルエンザ。かかる前に予防。こじらす前に治療。」

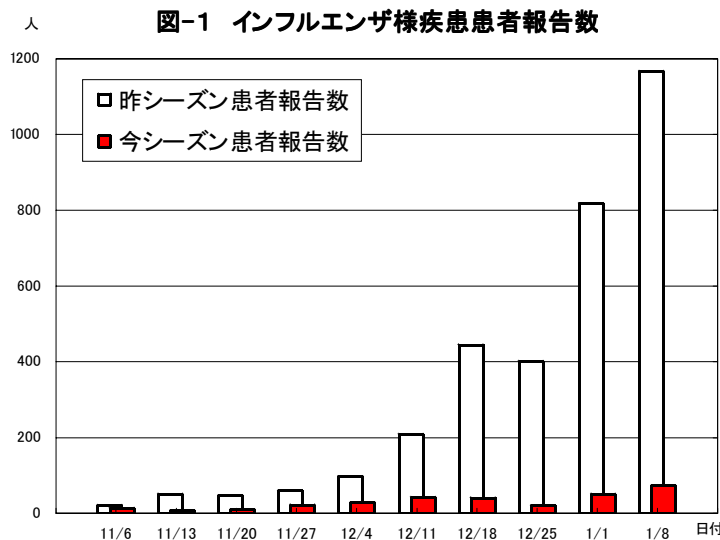
インフルエンザ流行のきざしがみえてきました。昨年12月は比較的暖かく、1月に入っても雪や雨が多いせい、インフルエンザ様疾患の報告例は、過去の同時期に比較しかなり少なくなっています。1月19日発行のインフルエンザウイルス検査情報に掲載したように、1月12日に搬入された多摩地区の検査定点医療機関の患者検体から今年初めてインフルエンザウイルスB型が検出（遺伝子検査による）されました。1月22日までに搬入された検体からA/H1型が1件と、A/H3型が1件検出されています。1月23日に学級閉鎖が行われた小学校2校の集団風邪事例のうち1校からA/H1型が検出されました。現在、ウイルスの分離中です。

インフルエンザニュース第5号では、

1. これまでに報告されたインフルエンザ様疾患患者発生状況
2. 東京都公立学校の学級閉鎖状況
(東京都教育庁「公立学校のインフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況」等報告による)
3. インフルエンザの検査法
4. インフルエンザの予防と、インフルエンザにかかった時の注意
5. その他について掲載しました。

1. インフルエンザ様疾患患者発生状況

昨シーズンと今シーズンのインフルエンザ様疾患の患者発生数を、グラフと同時に一覧表にしました。今後も随時患者数を報告いたします。



国立感染症研究所等による今冬季のインフルエンザウイルスの分離・検出情報

【全国】

Aソ連型：新潟、静岡、香川等、
A香港型：神戸、新潟、埼玉等
B型：静岡、長崎、奈良等

【東京都】ただしPCR法による

Aソ連型：新宿区、日野市
A香港型：府中市
A型－迅速診断キット：
練馬区、世田谷区
B型：稲城市

感染症発生動向調査の病原体情報でも、都内では上・下気道炎からインフルエンザウイルス以外にアデノウイルスやRSウイルスの検出が報告されています。

東京都のインフルエンザウイルスの検出情報は、毎週金曜日に発行される「インフルエンザウイルス検査情報」をご覧ください。1月29日現在「インフルエンザウイルス検査情報」はNo.9まで発行されています。

表ー1 インフルエンザ様疾患患者報告数比較（今シーズンと昨シーズン）

月日	11月				11月計	12月				12月計	1月				
	1週	2週	3週	4週		1週	2週	3週	4週		1週	2週	3週	4週	5週
今シーズン	14	8	10	23	55	29	43	39	41	152	21	51	73		
昨シーズン	22	51	47	60	180	98	210	445	402	1155	818	1167	2562	3864	3903

2. 東京都公立学校の学級閉鎖状況

2000年10月12日から2001年1月22日までに教育庁に届けられた東京都公立学校の学級閉鎖状況と欠席者数と患者数を掲載しました。

表ー2 公立学校のインフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況

学校種別	幼稚園		小学校		中学校		その他		欠席者数合計	患者数合計
	園数	組数	学校数	学級数	学校数	学級数	学校数	学級数		
3週迄	2	2	7	9	1	1	0	0	119	252
4週	0	0	1	1	0	0	0	0	11	28
計	2	2	8	10	1	1	0	0	130	280

（注）学校種別のその他には、高等学校と言ろう養護学校を含み、組・学級数は延数です。

（平成13年1月22日現在教育庁報告）

厚生労働省結核感染症課のまとめによると、インフルエンザ様疾患発生報告数における学校欠席者数は、平成12年10月29日から平成13年1月6日までの累計で660人であり、昨年同期の9,772人に比べ10分の1以下となっています。

（IDWR 通巻第3巻 第1号より）

3. インフルエンザの検査法

インフルエンザニュース第4号では、主に医療機関で用いられている迅速診断キットの紹介をしましたが、第5号では衛生研究所等の検査機関で行われているインフルエンザの検査法を簡単に紹介します。

インフルエンザの検査法は、大きく分けて

- 1) ウイルス分離検査：ウイルスを増殖させてから検出する方法
- 2) 分子生物学的検査法（PCR法）：ウイルス遺伝子を増やして検出する方法
- 3) 血清による免疫学的検査法：ペア血清*でインフルエンザの抗体価の上昇を検査する方法

*ペア血清：同一患者からインフルエンザの急性期（罹患後2～3日以内）と、回復期（罹患後10～14日目）の2回採血を行った時の血清

の3種類の検査があります。

インフルエンザの検査を行うには、ウイルス本体や遺伝子を増やして検査を行うために、インフルエンザに罹った早い時期（罹患後2～3日以内：急性期）の鼻腔吸引液や鼻腔拭い液、咽頭拭い液や咽頭うがい液が用いられます。また、免疫学的検査法にはペア血清を用います。

インフルエンザの診断確認は、迅速診断キットをはじめ上記の3種類の検査のいずれでもできます。

衛生研究所の検査では、流行しているウイルスの型がわかるだけでなく、将来の流行予測やワクチン製造に用いることができるため、できるだけウイルスの分離を試みます。

ウイルス分離の場合もPCR法の場合も、ウイルス粒子やウイルス遺伝子を数千万個に増やしてから調べますが、そこまで増やすのにウイルス分離で数日から十数日、PCR法で2～3日かかります。

ちなみに検体に含まれるインフルエンザウイルスの量は、鼻腔吸引液に多く、次いで咽頭拭い液、咽頭うがい液の順に少なくなっています。

最後に血清による免疫学的検査法ですが、ウイルス分離や、PCR法でインフルエンザウイルスが確認できなくても、急性期と回復期のペア血清でインフルエンザウイルスの抗体価の上昇を確認することでインフルエンザ疾患の確定診断ができます。

4. インフルエンザの予防とインフルエンザにかかった時の注意

・インフルエンザの予防には

- ・流行時期には人混みをさけましょう。
- ・疲労や睡眠不足は禁物です。
- ・室内は、適度な温度と湿度の維持を心掛けましょう。
- ・バランスの良い食事を摂るように、気を配りましょう。
- ・外出時のマスク、帰宅時のうがいや手洗いは忘れずに。
- ・インフルエンザの予防接種は、かかりつけ医と相談しましょう。

・インフルエンザにかかったら

- ・単なるかぜと軽く考えず、早めに医療機関で受診し、治療を受けましょう。
- ・安静と休養が肝心です。睡眠は十分に。
- ・部屋の湿度を保ちましょう。乾燥するとインフルエンザに罹りやすくなります。
- ・水分は十分に補給しましょう。ジュース、スープなど飲みたいものを飲みましょう。

5. その他

インフルエンザニュース4号で紹介したインフルエンザの治療薬「ザナミビル」が、「リン酸オセルタミビル」とあわせて1月24日の中央社会保険医療協議会において医療保険の適用（2月2日より）が承認されました。これでインフルエンザの治療薬は、すでに承認されているインフルエンザウイルスA型に効果のある「塩酸アマンタジン」と、今回のインフルエンザウイルスA型とB型の両方に効果があるこれら二剤を含め3種類になります。

下記にインフルエンザに関連するホームページ一覧を掲載しました。ご利用ください。

【インフルエンザ相談ホットライン】

開設時期：

平成12年11月6日～平成13年3月16日まで

対応日時：月曜日～金曜日（祝日除く）

9：00～17：00

電話番号：03-5285-1231

FAX番号：03-5285-1233

e-mail：influenza@nih.go.jp

厚生省ホームページ：

<http://www.mhw.go.jp>

国立感染症研究所

感染症情報センターホームページ：

<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

インフルエンザホームページ：

<http://influenza-mhw.sfc.wide.ad.jp/>

編集・発行 東京都立衛生研究所

〒169-0073

東京都新宿区百人町3-24-1

事務局 微生物部疫学情報室

Tel：03-3363-3213

Fax：03-5332-7365

e-Mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

URL：www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/

